

第 33 回 建設業経理士試験 解説

〔第 1 問〕

- (1) 別途積立金の取崩
 (別 途 積 立 金) 1,800,000 (繰越利益剰余金) 1,800,000
- (2) 新築工事の完成引渡
 (建 物) 21,000,000 (建設仮勘定) 7,000,000
 (当 座 預 金) 14,000,000
- (3) 社債の購入 (端数利息の支払含む)
 勘定科目が投資有価証券しか無いため次のようになる。
 (投資有価証券) 4,900,000 (当 座 預 金) 4,907,750
 (有価証券利息) 7,750
 $\text{¥}5,000,000 \div @ \text{¥}100 = 50,000 \text{ 口}$ $50,000 \text{ 口} \times @ \text{¥}98 = \text{¥}4,900,000$
 $\text{¥}5,000,000 \times 1.825\% = \text{¥}91,250 \text{ (年間利息)}$ $\text{¥}91,250 \times 31 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = \text{¥}7,750$
- (4) 固定資産 (機械装置) の滅失
 (機械装置減価償却累計額) 4,920,000 (機 械 装 置) 8,200,000
 (火 災 未 決 算) 3,280,000
- (5) 完成工事補償引当金の取崩
 (完成工事補償引当金) 500,000 (工 事 未 払 金) 500,000

〔第 2 問〕

- (1) 材料の期末における取引価格 (正味売却価額)

原 価		
@ ¥150	材料評価損	
正味売却価額	¥25,200	
@ ¥ ?		

実地棚卸量
3,150 個

- (2) 当期の完成工事高

$$\text{¥}80,000,000 \times \frac{\text{¥}9,000,000}{\text{¥}60,000,000} = \text{¥}12,000,000 \text{ (前期の完成工事高)}$$

$$\text{¥}80,000,000 \times \frac{\text{¥}9,000,000 + \text{¥}10,600,000}{\text{¥}56,000,000} = \text{¥}28,000,000 \text{ (前期と当期の完成工事高)}$$

$$\text{¥}28,000,000 - \text{¥}12,000,000 = \text{¥}16,000,000 \text{ (当期の完成工事高)}$$

- (3) 総合償却

総合償却とは、複数の資産を一括に減価償却計算および記帳を行なう方法である。

機械装置 A : (¥2,500,000 - ¥250,000) = ¥2,250,000 ÷ 5 年 = ¥ 450,000			
機械装置 B : (¥5,200,000 - ¥250,000) = ¥4,950,000 ÷ 9 年 = ¥ 550,000			
機械装置 C : (¥ 600,000 - ¥ 90,000) = ¥ 510,000 ÷ 3 年 = ¥ 170,000			
機械装置 D : (¥ 300,000 - ¥ 30,000) = ¥ 270,000 ÷ 3 年 = ¥ 90,000			
合 計	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">¥7,980,000</td> <td style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">¥1,260,000</td> </tr> </table>	¥7,980,000	¥1,260,000
¥7,980,000	¥1,260,000		

$$\text{¥}7,980,000 \div \text{¥}1,260,000 = 6.333\cdots \rightarrow 6 \text{ 年}$$

- (4) 賞与引当金

$$\text{¥}12,000,000 \times \frac{4 \text{ か月}}{6 \text{ か月}} = \text{¥}8,000,000$$

〔第3問〕

階梯式配賦法とは、補助部門相互間の用役の授受を計算上一部は考慮し一部は無視する方法である。要約すると部門費振替表上の自部門より左の部門へ配賦する方法である。

1. 運搬部門費の配賦

$¥185,000 \times 25\% = ¥46,250$ (工事第1部への配賦額)

$¥185,000 \times 40\% = ¥74,000$ (工事第2部への配賦額)

$¥185,000 \times 28\% = ¥51,800$ (工事第3部への配賦額)

$¥185,000 \times 5\% = ¥9,250$ (仮設部門への配賦額)

$¥185,000 \times 2\% = ¥3,700$ (機械部門への配賦額)

2. 機械部門費の配賦

$(¥425,300 + ¥3,700) \times 32\% = ¥137,280$ (工事第1部への配賦額)

$(¥425,300 + ¥3,700) \times 35\% = ¥150,150$ (工事第2部への配賦額)

$(¥425,300 + ¥3,700) \times 25\% = ¥107,250$ (工事第3部への配賦額)

$(¥425,300 + ¥3,700) \times 8\% = ¥34,320$ (仮設部門への配賦額)

3. 仮設部門費の配賦

$(¥253,430 + ¥9,250 + ¥34,320) \times 30\% = ¥89,100$ (工事第1部への配賦額)

$(¥253,430 + ¥9,250 + ¥34,320) \times 40\% = ¥118,800$ (工事第2部への配賦額)

$(¥253,430 + ¥9,250 + ¥34,320) \times 30\% = ¥89,100$ (工事第3部への配賦額)

摘要	合計	工事第1部	工事第2部	工事第3部	仮設部門	機械部門	運搬部門
部門費合計	17,618,730	5,435,000	8,980,000	2,340,000	253,430	425,300	185,000
運搬部費	185,000	46,250	74,000	51,800	9,250	3,700	185,000
機械部門費	429,000	137,280	150,150	107,250	34,320	429,000	
仮設部門費	297,000	89,100	118,800	89,100	297,000		
合計	17,618,730	5,707,630	9,322,950	2,588,150			

〔第4問〕

問1 理論問題

模範解答を参照すること。

問2 工事別原価計算表の作成と工事間接費配賦差異の月末残高の計算

1. 月初未成工事原価の計算

資料2より、次のように計算する。

工事番号	No.501	No.502	合計
材料費	235,000	580,000	
労務費	329,000	652,000	
外注費	650,000	1,328,000	
経費	115,000	218,400	
合計	1,329,000	2,778,400	4,107,400

2. 当月発生工事原価の計算

労務費と工事間接費以外は、資料4を記入すればよい。

(1) 労務費の計算

@ ¥2,100 × 153 時間 = ¥ 321,300

@ ¥2,100 × 253 時間 = ¥ 531,300

@ ¥2,100 × 374 時間 = ¥ 785,400

@ ¥2,100 × 192 時間 = ¥ 403,200

¥2,041,200

(2) 工事間接費の計算

直接原価(工事直接費)基準による予定配賦の次の手順により計算する。

① 予定配賦率の計算

$¥2,252,000 \div ¥56,300,000 \times 100 = 4\%$

② 実際操業度（実際直接原価）の計算

工事番号	No.501	No.502	No.601	No.602
材料費	258,000	427,000	544,000	175,000
労務費	321,300	531,300	785,400	403,200
外注費	765,000	958,000	2,525,000	419,000
経費	95,700	113,700	195,600	62,800
合計	1,440,000	2,030,000	4,050,000	1,060,000

③ 予定配賦額の計算

$$¥1,440,000 \times 4\% = ¥57,600$$

$$¥2,030,000 \times 4\% = ¥81,200$$

$$¥4,050,000 \times 4\% = ¥162,000$$

$$¥1,060,000 \times 4\% = ¥42,400$$

$$\underline{\underline{¥343,200}}$$

④ 工事間接費配賦差異の計算

工事間接費

実際発生額	予定配賦額
¥341,000	¥343,200

$$¥341,000 - ¥343,200 = ¥2,200 \text{ (貸方)}$$

$$¥3,500 \text{ (借方)} - ¥2,200 \text{ (貸方)} = ¥1,300 \text{ (借方)}$$

(3) 工事別原価計算表の作成

摘要	No.501	No.502	No.601	No.602	計
月初未成工事原価	1,329,000	2,778,400	—	—	4,107,400
当月発生工事原価					
材料費	258,000	427,000	544,000	175,000	1,404,000
労務費	321,300	531,300	785,400	403,200	2,041,200
外注費	765,000	958,000	2,525,000	419,000	4,667,000
直接経費	95,700	113,700	195,600	62,800	467,800
工事間接費	57,600	81,200	162,000	42,400	343,200
当月完成工事原価	2,826,600	—	4,212,000	—	7,038,600
月末未成工事原価	—	4,889,600	—	1,102,400	5,992,000

〔第5問〕

精算表を作成する問題である。精算表の作成は、決算整理事項等の仕訳に基づいて整理記入欄に金額を記入する。

(1) 現金過不足

未処理事項を処理したのち、帳簿残高を実際の手元有高に合わせる。

(事務用消耗品費)	800	(現金)	800
(雑損失)	600	(現金)	600

(2) 材料貯蔵品の棚卸減耗

(未成工事支出金)	1,000	(材料貯蔵品)	1,000
-----------	-------	---------	-------

(3) 仮払金の振替

① 本社事務員の出張仮払金

(旅費交通費)	2,500	(仮払金)	3,000
(現金)	500		

② 法人税等の中間納付

法人税、住民税及び事業税の額がまだ計算できていないため、仕訳だけ示すと次のようになる。

(法人税、住民税及び事業税)	×××	(仮払金)	25,000
		(未払法人税等)	×××

(4) 減価償却

① 機械装置

月次原価計算（月次決算）で月間見積額の¥4,500を毎月未成工事支出金（製造原価）に計上しているため、年間見積額と実際発生額を比較する。

$¥4,500 \times 12 \text{ か月} = ¥54,000$ （予定計上額）

$¥56,000 - ¥54,000 = ¥2,000$

実際発生額（正しい金額）が¥2,000多いため、次のように仕訳する。

(未成工事支出金)	2,000	(機械装置減価償却累計額)	2,000
-----------	-------	---------------	-------

② 備品

$¥90,000 \div 3 \text{ 年} = ¥30,000$

(備品減価償却費)	30,000	(備品減価償却累計額)	30,000
-----------	--------	-------------	--------

(5) 仮受金

① 完成工事未収入金の回収

(仮受金)	7,000	(完成工事未収入金)	7,000
-------	-------	------------	-------

② 未成工事受入金の受取

(仮受金)	21,000	(未成工事受入金)	21,000
-------	--------	-----------	--------

(6) 貸倒引当金の設定

$(¥112,000 + ¥565,000 - ¥7,000) \times 1.2\% = ¥8,040$

$¥8,040 - ¥7,800 = ¥240$

(貸倒引当金繰入額)	240	(貸倒引当金)	240
------------	-----	---------	-----

(7) 完成工事補償引当金の設定

$¥12,300,000 \times 0.2\% = ¥24,600$

$¥24,600 - ¥24,100 = ¥500$

(未成工事支出金)	500	(完成工事補償引当金)	500
-----------	-----	-------------	-----

(8) 退職給付引当金の設定

(未成工事支出金)	8,600	(退職給付引当金)	11,400
-----------	-------	-----------	--------

(退職給付引当金繰入額)	2,800		
--------------	-------	--	--

(9) 完成工事原価への振替

精算表の下記を参照して未成工事支出金の残高が¥132,000の借方残高になるように完成工事原価を計算する。

勘定科目	残高試算表		整理記入	
	借方	貸方	借方	貸方
未成工事支出金	213,500		132,000	

$¥213,500 + ¥1,000 + ¥2,000 + ¥500 + ¥8,600 - ¥132,000 = ¥93,600$

(完成工事原価)	93,600	(未成工事支出金)	93,600
----------	--------	-----------	--------

(10) 法人税、住民税及び事業税の計算

精算表の損益計算書欄で税引前当期純利益を計算すればよい。

勘定科目	損益計算書			
	借方		貸方	
完成工事高			123,000	000
完成工事原価	107,640	000		
販売費及び一般管理費	11,670	000		
受取利息配当金			234,000	
支払利息		1,706		
事務用消耗品費			800	
旅費交通費		25,000		
雑損失		6,000		
備品減価償却費		3,000		
有価証券評価損		18,000		
貸倒引当金繰入額		24,000		
退職給付引当金繰入額		28,000		

$$¥12,300,000 + ¥23,400 - ¥10,764,400 - ¥1,167,000 - ¥17,060 - ¥800 - ¥2,500 - ¥600 - ¥30,000 - ¥18,000 - ¥240 - ¥2,800 = ¥320,000 \text{ (税引前当期純利益)}$$

$$¥320,000 \times 30\% = ¥96,000 \text{ (法人税、住民税及び事業税)}$$

(法人税、住民税及び事業税)	96,000	(仮払金)	25,000
		(未払法人税等)	71,000